

コープふくしま 仮設住宅のお花見にシジミ汁を

4月28日、福島市の松川第二仮設住宅（飯舘村より避難）にて、コープふくしまの組合員がシジミ汁を振る舞いました。



「大きな声で笑ってリフレッシュしました」

コープふくしまでは、取引先の（有）小川水産（愛知県）より提供いただいたシジミでシジミ汁を作り、仮設住宅に住んでいる方に振る舞いました。組合員手作りの温かいシジミ汁に、「やっぱりシジミ汁はうめいない」「ありがとう」と何杯もおかわりをされていました。

この日は、駐車場に植えられていた

1本の桜がちょうど満開を迎えたところ。去年は、いつ、どんな花が咲いたかも分からないほど慌ただしい1年だったといいます。仮設住宅にお住まいの方は、

「お花見をするのも、こうしてみんなが一堂に集って交流を深めるのも、この仮設住宅に入居して初めてです。大きな声で笑ったのも久しぶりです」と

話していました。

コープふくしま生活文化グループの酒井孝子さんは、

「本当に皆さまに喜んでいただき、こちらもうれしい気持ちでいっぱいです。こうしてみんなで笑い合える環境をもっとたくさんつくっていったら」と今後について述べていました。

顔が見えるつながりで支援を続けたい

コープこうべとみやぎ生協による「広げよう みやぎ生協支援の輪 へちま絆プロジェクト」が始まりました。



悪天候にも関わらず、楽しそうに種植えをする参加者たち。

コープこうべでは、“顔が見えるつながり”のため、みやぎ生協との絵手紙交換などを行なっています。

今回、こうしたプロジェクトの一環として、「へちま絆プロジェクト」が始動しました。このプロジェクトには、コープこうべ大阪北地区・第1地区・第2地区活動サポートセンターと、みやぎ生協県北ボランティ

アセンター（気仙沼市・南三陸町）が取り組んでいます。

5月6日には、面瀬中学校仮設住宅（宮城県気仙沼市）でへちまの種植えが行なわれました。このへちまの種は、コープこうべから届いたものです。

1月17日に、コープこうべがみやぎ生協の理事・役職員を神戸に招き、開催した「1.17 きずな交流会」。ここ

で意見交換をした際、男性も参加しやすい園芸で、さまざまな使用用途が考えられるへちまを育ててはどうか、という意見が出て、このプロジェクトがスタートしました。

種植え当日は雷雨でしたが、28人の参加者からは、「楽しみで早めに来ました」などの声も聞かれ、和やかな雰囲気で作業が進められていました。